

防滴型ポータブル 温湿度計 “ウィズモ”

品番 PTH-DP

取扱説明書

この度は **TRUSCO** 防滴型ポータブル温湿度計“ウィズモ”をお買い上げいただき誠にありがとうございます。ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。また、お読みになった後は大切に保管し、必要な時にお読みください。

■使用上のご注意

- 必ずご使用前にこの「使用上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する内容ですので、必ずお守りください。

警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容
注意	人が傷害を負う可能性及び物的損害の発生が想定される内容

警告	
●絶対に分解・修理・改造をしない。	発火・感電・けがの原因になります。
●通気口の穴にピンや異物などを入れない。	内部の電気回路がショートして発火・感電・けがの原因になります。
●本体を水につけたり、水洗いをしない。	防水構造ではないため、感電・ショートのおそれがあります。
●異常・故障がある場合は直ちに使用を中止し点検・修理を依頼する。	発火・感電・けがの原因になります。
●乳幼児の手の届くところに置かない。	誤飲・けがの可能性がります。

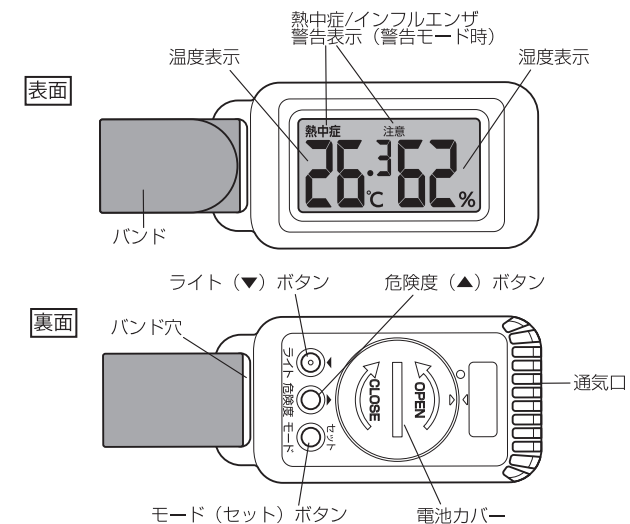
注意	
●落としたり、ぶつけたりなど強い衝撃を与えない。	
●直射日光のあたる場所や、高温になる場所に置かない。	
●本体の上に物を置いたり、上に乗ったりしない。	

- 本製品は医療用・業務用ではありません。一般的な日常生活での温度・湿度の目安としてご使用ください。
- 本製品を商取引や公に温度・湿度を証明する場合には使用しないでください。誤差による二次的な損害等に対し、弊社は一切の責任を負えないことをご了承ください。

電池について	
●ショートさせない。分解・加熱をしない。火中に投じない。	
●電池の液が皮膚や衣服に付着したらきれいな水で洗い流し、目に入ったときはすぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受ける。	
●万一飲み込むと電池分解反応により消化器が損傷するため非常に危険です。絶対に飲み込まないよう、乳幼児の手の届くところに置かない。万一飲み込んだ場合には、直ちに医師に相談する。	
●電池の極性(+-)を正しく入れる。	
●電池を使い切ったときや長期間使用しないときは、電池を取り出す。	
●電池を廃棄するときは、自治体の指示に従う。	
●使用・保管時に電池の発熱や変形など今までと異なることに気づいたときは使用を中止する。	

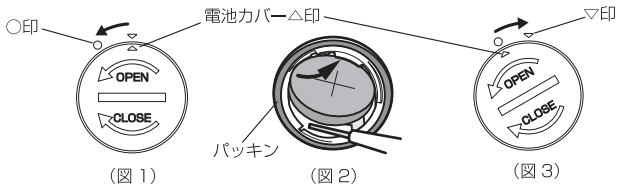
■各部の名称

※本書に記載されているイラストはイメージです。



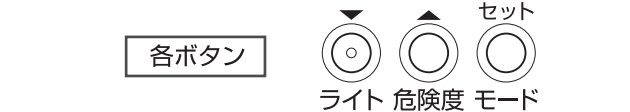
■電池交換

- 電池寿命：約1年
 - ※付属の電池は動作確認用ですので、電池寿命は短い場合があります。
 - ※ご使用状況によってバックライトの点滅・点灯が多い場合は、電池寿命が極端に短くなる場合があります。
1. 本体裏面の電池カバーをコインで「OPEN」の方向へ止まるまで回し、取りははずす。(図1参照)
 2. 古い電池を取り出す。取り出しにくいときは、マイナスドライバー等の先が細いものを使い取り出してください。(図2参照)
 3. 新しい電池を「+」側を上にして入れ、電池カバーの△印を本体側の○印に合わせてかぶせて、コインで「CLOSE」の方向へ止まるまで(本体側▽印と同じ位置まで)回して閉じる。(図3参照)
- ※電池カバー・パッキンにゴミなどが付着していると、水分が浸入するおそれがあります。



■時計の設定方法

※電池をはずすと時計はリセットされ初期値(12:00)に戻ります。
※設定中に約1分間何も操作しないと設定はキャンセルされます。
※各ボタンはしっかり押し込んでください。



1. 「モード」ボタンを押して時計表示にし、もう一度「モード」ボタンを約3秒間長押しする。「12Hまたは24H」が点滅する。
2. 「▲」または「▼」ボタンを押してお好みの表示方法を選択する。※「12H」⇒12時間表示(AM/PM)「24H」⇒24時間表示
3. 「セット」ボタンを押して決定する。「時」が点滅する。
4. 「▲」または「▼」ボタンを押して、「時」を合わせる。※「▲」ボタンを1回押すと1時間ずつ数字が増え、「▼」ボタンを1回押すと1時間ずつ数字が減ります。押し続けると速く進みます。
5. 「セット」ボタンを押して決定する。「分」が点滅する。
6. 「▲」または「▼」ボタンを押して、「分」を合わせる。※「▲」ボタンを1回押すと1分ずつ数字が増え、「▼」ボタンを1回押すと1分ずつ数字が減ります。押し続けると速く進みます。
7. 「セット」ボタンを押して決定する。0秒から時計がスタートし、設定完了です。

■表示モードを切り替える

「モード」ボタンを押すと、温度/湿度表示と時計表示を切り替えることができます。
※警告モード時は切り替えできません。

■バックライト

「ライト」ボタンを押すと、バックライトが約5秒間点灯します。※約5秒間点灯し、自動で消灯します。※ボタンを押してもバックライトを消すことはできません。※熱中症/インフルエンザ警告表示(警告モード)のときは、「ライト」ボタンを押してもバックライトは点灯しません。

■熱中症の警告表示とバックライト点滅について

本製品は熱中症の危険性を文字表示とバックライトの点滅でお知らせします。(下表参照)
温度/湿度表示のときに「危険度」ボタンを押すと、警告モードと通常の温度/湿度表示を切り替えることができます。
※警告モードは、約5分経過すると自動で通常の温度/湿度表示に戻ります。
※熱中症とインフルエンザ、どちらの表示も出ない範囲があります。

熱中症(WBGT)	注意	警戒	嚴重警戒	危険
警告表示	表示なし ※WBGT 21℃未満	熱中症 警戒	熱中症 嚴重警戒	熱中症 危険
バックライト点滅	点滅なし	点滅なし	ゆっくり点滅 (約30秒間)	はやく点滅 (約60秒間)

●警告表示中のバックライト点滅の止め方
バックライト点滅中に「危険度」ボタンを押すと、通常の温度/湿度表示になりバックライトの点滅も止まります。

■熱中症とは(出典 ひと涼みしよう 熱中症予防 声かけプロジェクト)

熱中症は、気温が高いことなどで、身体の中の水分や塩分(ナトリウムなど)のバランスが崩れたり、体の調整機能が正常に動かなくなることによって引き起こされます。人の身体は、常に熱を作り出す一方、汗をかいいたり、皮膚から熱を逃がすことで、体温の上昇を抑えています。このような体温の調節機能がうまく働かず、体内に熱がこもり、体温が異常に上昇することで熱中症は起こります。また、真夏日や熱帯夜が多い年は、熱中症で亡くなる人も増えます。一般的には、最高気温が25度を超えると患者が発生し、30度を超えると熱中症で死亡する人の数が増えはじめると言われてています。

日常生活における熱中症予防指針
(出典 日本生気象学会「日常生活時における熱中症予防指針 Ver3」)

温度基準 (WBGT)	注意すべき生活活動の目安	注意事項
危険 (31℃以上)	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が高い。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
嚴重警戒 (28～31℃)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25～28℃)	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休息を取り入れる。
注意 (25℃未満)	強い生活活動でおこる危険性	一般的に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

熱中症の症状と対策

- ・注意：熱中症の危険は少ないですが、兆候に注意しましょう。スポーツなどの活動をしている方は、適度な水分補給を心がけましょう。
- ・警戒：熱中症の危険が増しています。スポーツなどの活動をしている方はこまめに休息をとり積極的に水分補給をしましょう。激しい運動は30分おきくらいに休息をとりましょう。
- ・嚴重警戒：熱中症の危険が高まっています。スポーツなどの活動をしている方は激しい運動を避けてください。体力の低い方、暑さに慣れていない方は運動を中止してください。積極的に休息と水分補給を行ってください。
- ・危険：熱中症の危険があります。特別の場合以外はすべての運動を中止してください。体温の上昇に注意し、十分な休息と水分補給を行ってください。

